

## 復活節第6主日

福音朗読 ヨハネ 14・15-21

2023.5.14 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日は、ミサの初めにも申し上げましたけれども、カトリック教会にとっては「世界広報の日」。復活節第6主日は毎年「世界広報の日」とされています。1967年以來です。この日は特に、教会の宣教活動の中で、テレビとか新聞とかラジオとか現代ではインターネットとか、そういうメディアを使っての宣教活動について考え、また、そのために祈り、献金をする日に当たっています。

「広報」と言うとなにか一方通行のような、どのようにこちらの言いたいことを伝えるのかっていうことが中心に考えてしまいがちですけれども、この日の英語の名前は World Communications Day (コミュニケーションの日) となっています。そういう意味では、どのように伝えるかということだけではなくて、この教会が世界とどのように関係を持って行くのか、ひいては、わたしたち一人ひとりが他の人とのどのような関係を持つのかということ振り返る、そのような日として捉えることもできます。

実際に、毎年、教皇様はこの日のためにメッセージをお出しになるわけですが、フランシスコ教皇様は3年間にわたって、ずうっとつながったテーマでお話しされていて、今年がその3年目の最後なんですけれども、2年前が「来て、見なさい」、良く見るというテーマでした。そして去年が「心の耳で聴く」、そして今年が「心をもって、『愛に根ざして真理を語る』」っていう、ようやく3年目にして「語る」っていうことがテーマになりましたけれども、その前提としては、良く見る、また更に「来て、見なさい」ということなので、自分から出かけて行ってこの世界の現状を見る、そして相手の話すことに心から耳を傾ける。そういう前提があってこそ、今度はこちらが語る、ということなんだというふうにつながって おっしゃっているわけです。

それは、教会と世界の関係だけではなくて、わたしたちの個人と個人のコミュニケーションも同じです。今は説教ですから、わたしが一方的に、相手に構わず発信しているということになってしまっていますけれども、個人間のコミュニケーションも、また教会の宣教活動もそのようなものであってはならないというのが教皇様の伝えたいことなわけです。相手のことを良く見て、現状を見て、

そして心から耳を傾ける人が、今度は心から相手に語る。宣教がそのようなものであるときに、——以下、教皇様のお言葉を引用して朗読しますが、——わたしたちの宣教、あるいは、やり方っていうのは、「わたしたちの発するものを読んだり聞いたりしている人たちに、現代人の喜びや不安、希望や苦しみをわたしたちは共有しているのだと分かってもらうことです」。そのようにおっしゃいます。「そのように伝える人は、相手の幸福を望んでいます。そういう人は相手を思いやり、相手の自由を侵さず大事にするからです」。

このように、それこそが本当の意味でのコミュニケーションだし、伝達、こちらから言葉を発するならばそのようであればならない。一方的に「わたしたちのことを分かってください」という、そういうものではないのだ、と。むしろ、十分に相手を理解しようとする態度の先に、わたしたちが語ることができるというわけです。それは、ただ教会の宣教活動ということに尽きるのではなくて、むしろ現代の色々な形でのメディアや報道についても言えるわけです。

現代のいろんな特徴として、無関心だったり、すぐに怒ったり、時には真実を捏造して操作する似せ情報を持ち出したりするという、そういう情報社会、インターネットでいろんな形で人と人とが繋がることができるようになれば、もっと人は視野が広がるかと思っていたら、もっと自分に心地よい、都合の良い、あるいは同じ意見の、そういう者だけを呼び集めるようになって、分裂がどんどん進んでしまっている。教皇様は、そういう現実の中であって、本当の意味で相手に耳を傾け、そして相手の幸福を願う、その心から語ることができる、そういうコミュニケーションが実現していくようにと願っていらっしゃる。そういうメッセージです。

そのためには、一人ひとりの心から出発しなければならないということ、教皇様はメッセージの最後に思い出させてくださいます。一人ひとりの心から、一人ひとりの回心から、この平和のコミュニケーションは回復されていくこととなります。

回心とはなんでしょうか。それは、わたしたちが神様や周りの人が何を望んでいるかということに全く関心を払わずに自分の満足のためだけに生きようとする、そういう心の在り方から変わっていくということです。自分の満足のためだけに生きようとするというのを、キリスト教では罪の本質というふうに捉えていますけれども、その罪から解放されていくことを通して、わたしたちは互いに周りの人に耳を傾けることができ、そしてほんとの意味で相手の喜びや不安、希望や苦しみを共有する、そういう思いから何事かを語ることができるようになっていくということなのだと思います。回心は、わたしたちはこうしなければ

ならないという、自分に課していくものと言うよりは、むしろイエス様と出会うことを通して実現していくんだと、いつもミサのたび毎に確認しています。

回心、それは本当の意味でのわたしたち一人ひとりの喜びや不安や希望や苦しみを共有してくださって、わたしたち一人ひとりの幸福を望んでくださるイエス様と出会うことを通して、わたしたちの心が変わっていく、そういう歩みということが言えるでしょう。それは聖霊の助けのうちに実現していく。だから、わたしたちは絶えずその助けを願い求める必要があります。

今日、特に「世界広報の日」に当たって、色々な形でのメディアや、また、教会の宣教活動が、自分の利益を求めためだけではなく、ほんとの意味で、出会う人の喜びや不安や希望や苦しみを共有し、そして世界の、また一人ひとりの幸福を願う、そういうものであるように、また、わたしたちが周りの人と作っていくコミュニケーションがほんとの意味で互いの喜びや不安や希望や苦しみを共有して幸福を願い合う、そのようなものになっていきますように、このごミサを通して聖霊の導きを願いたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>